

○ アグリフードEXPOが東京で開催、全国から705社が出展
自社ブランド肉を訴求した加工品を紹介、牛肉では和牛経産の再肥育牛など

国産農産物をテーマにした食品展示商談会「アグリフードEXPO東京2017」(主催:日本政策金融公庫)が23~24日、東京・江東区の東京ビッグサイトで開かれた。東京での開催は今回で12回目を迎え、全国から生産者・団体、メーカーなど705社が出展、食肉・畜産関係の取扱いも40社以上に上った。

このうち、日清丸紅飼料は伊藤ハムと共同出展し、「ハーブ豚」の商品展示、パネル掲示を通じて「ハーブ村事業」の取組みを紹介した = 写真。

「ハーブ豚」は4種類のハーブ(オレガノ、シナモン、ジンジャー、ナツメグ)を最適配合した飼料



を肥育期に与えたもの。脂肪酸組成のバランスが良く、ヘルシーで、ハーブのマスキング効果で臭さが少なく、甘みのある脂とあっさりした赤身が特長。明確に差別化できる商品として各地の量販店をはじめ有名レストランで指名採用が広がっているという。会場では、スライスやブロック肉を展示しつつ、試食を通じて、臭みがなくあっさりとした味わいの「ハーブ豚」の特長を来場者に実感してもらっていた。